

浸種水温は10～15℃(13℃前後)で！低温に注意しましょう！

《10℃未満の低水温では発芽率が低下します》



消毒種子を使用する場合
(平成30年産用の消毒種子はテクリードCフロアブルが吹き付け処理されています。)

浸種 (※水温の確認をして下さい)

消毒種子の浸種期間=積算温度 120～130℃が目安
・水温13℃の場合・・・9～10日

浸種水温を10℃以上に保つ方法

- ・催芽器による浸種をしましょう。
- ・気温の低い3～4月はビニールハウス内で浸種をして下さい。(高温時は換気する)
- ・夜間は毛布などをかけて保温しましょう。

消毒種子

3日間浸種
停滞水で

水交換

※酸素不足にならないよう2～3日ごとに水の交換を行いましょ

初期生育遅延・抑制を防ぐため、浸種・催芽は十分に行いましょう

水交換

30℃
催芽

は種

育苗管理

種子もみをしっかり水に浸けましょう
(例) 種子もみ4kgに対して水16L
スミチオン乳剤(シンガレセンチュウ防除)を加える場合は16Lの水に16ml

粘性物の発生を抑えるため、浸種後に水を交換してから催芽して下さい。

催芽を均一に揃えるため、催芽の温度は30℃を守りましょう。

高温と多灌水は発病を助長するので適正な育苗管理に努めましょう。



注 発芽の揃いをよくするため、浸種期間を十分に確保しましょう。

・消毒種子を催芽器等で浸種・催芽する際黒色の粘性物が発生する場合がありますが発芽等に影響ありません。粘性物が発生した場合は早めに取り除きましょう。
・チウラム混合物との混用はしないで下さい。(沈殿物の発生及び細菌病防除効果が低下するため)

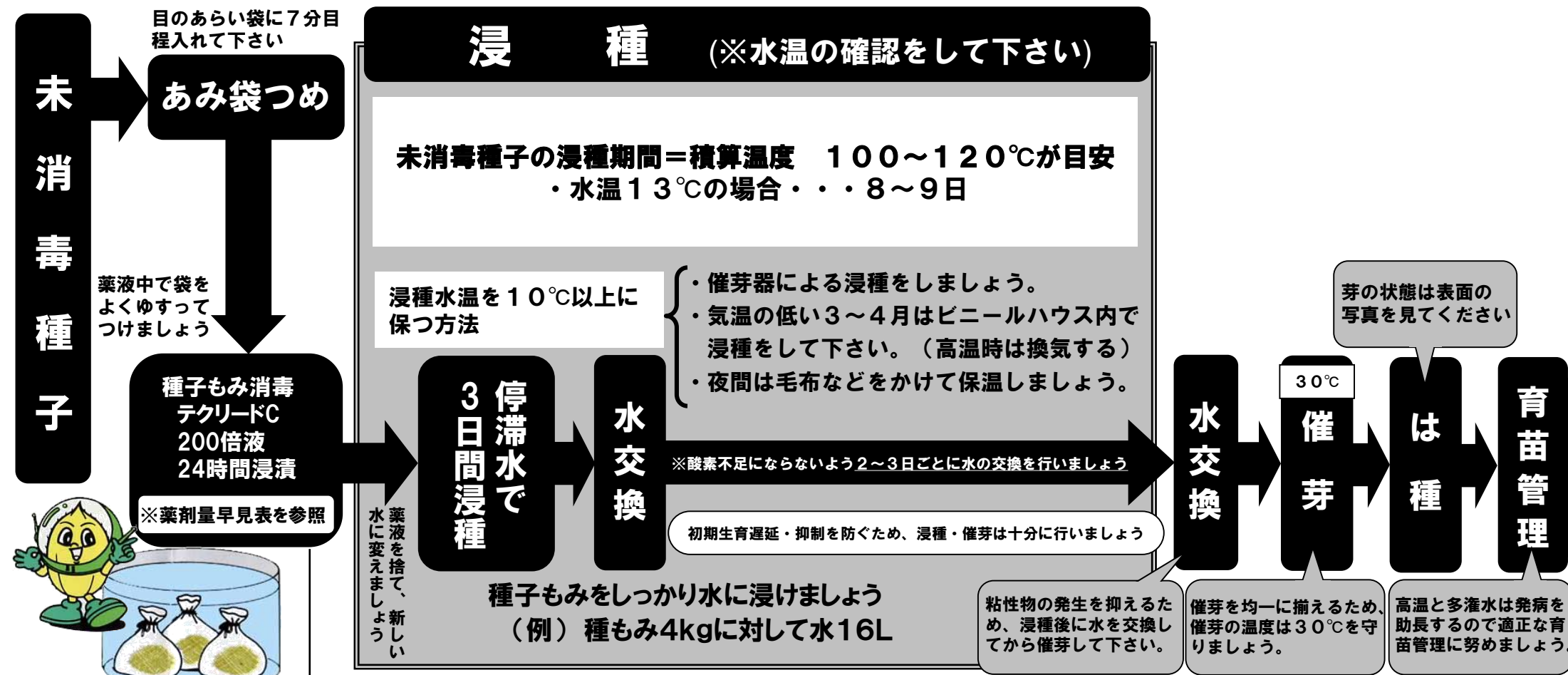
平成30年1月

(公社)栃木県米麦改良協会

浸種水温は10～15℃(13℃前後)で！低温に注意しましょう！

《10℃未満の低水温では発芽率が低下します》

未消毒種子を使用する場合



■薬剤量早見表

種子もみ量	4 kg	8 kg	20 kg	40 kg	容積比
水	8 L	16 L	40 L	80 L	1以上
テクリードCフロアブル(200倍)	40 ml	80 ml	200 ml	400 ml	
スミチオン乳剤(1000倍)	8 ml	16 ml	40 ml	80 ml	

⑨ 発芽の揃いをよくするため、浸種期間を十分に確保しましょう。

・チウラム混合物との混用はしないで下さい。(沈殿物の発生及び細菌病防除効果が低下するため)